

## NEWS RELEASE

平成 20 年 8 月 5 日

**電通、第 2 回キッズデザイン賞で社会貢献企業賞を受賞**

第 2 回キッズデザイン賞（主催：キッズデザイン協議会、後援：経済産業省）の発表が 8 月 4 日に行われ、電通の社会貢献活動である「広告小学校」が社会貢献企業賞（審査委員長特別賞）を受賞いたしました。

キッズデザイン賞は、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つ製品、コンテンツ、活動、リサーチなどを顕彰し、表彰作品に“キッズデザインマーク”を付与するもので、平成 18 年に経済産業省が創設した表彰制度です。産官学民が“デザイン”の力を通じて生み出した、子どもたちのための成果について、社会的、文化的な価値の見地から公正な評価を与え、その優れたものの顕彰を通じて、産業・研究活動と子ども環境の高度化を図ることを目的としています。

**<「広告小学校」概要>**

高度情報化社会が急速に進む中、メディアから発せられる情報を読み解く能力、また自ら伝える能力が現代の子どもたちに求められています。教育界では、従来より、子どもたちを対象にメディアの受信・選択能力を養うという実験研究を行ってきました。この研究分野の中でも重要な担い手の一人である、駒谷真美昭和女子大学准教授の協力を得て、平成 18 年度株式会社電通は国立大学法人東京学芸大学と共に「広告小学校—小学生のメディア・リテラシー教育プログラム—」プロジェクトを立ち上げました。

電通は、本プロジェクトを社の社会貢献活動と位置づけ、広告の業務で培ったコミュニケーションのノウハウや経験を生かし、「広告小学校」の教材開発・制作を担当しています。東京学芸大学附属世田谷小学校は、授業の実践と検討を通じて、小学校の教員向け指導案の作成やワークショップを行っています。

プログラムでは、ビデオ映像を基本教材に、広告の制作過程を実際に体験させる授業が行われます。広告作りを楽しみながら、メディアからの情報を取捨選択する確かな目を養うことによって、子ども達に「自らの判断に基づく情報読解能力」「自らの理解に基づく情報発信能力」「広義のコミュニケーション能力（自分の気持ちを伝える能力、他人の気持ちを思いやる想像力）」という 3 つの能力を身につけ、「コミュニケーション人間力」を高めてもらうことを目指しています。

### <審査員のコメント>

子どもたちが商品CMや自分CMをつくりプレゼンテーションする。広告というメディアを通じて、「自分が伝えるべき情報は何か」「どうすれば相手に伝わるか」を熟考する契機を与えるコミュニケーションリテラシー向上プログラムと言える。モノから人、社会へとジャンルを拡大していくという方法もよい。

### <「広告小学校」の授業風景>



<ポストイットを使って意見を出し合う>

<自分の特徴をポストイットに書き出す>



<キャラクターのコマ犬と修了証>



<修了証をもらって大満足の子ども達>

※ キッズデザイン賞に関する詳細は、キッズデザイン協議会の公式ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.kidsdesignaward.jp/index.htm>

※ 広告小学校に関する詳細は、電通の企業ホームページをご覧ください。

<http://www.dentsu.co.jp/csr-env/communication/school/index.html>